

体育学習における学習者の学習に取り組む意欲に 影響を及ぼす学習環境・組織要因に関する研究

永田 靖章・市野 聖治・豊嶋久美子
(体育教室) (体育教室) (大学院学生)

A Study on the Influence of the Organizational Factors
for the Learners' Motivation in Physical Education Classes

Yasuaki NAGATA

(Department of Health and Physical Education)

Shoji ICHINO

(Department of Health and Physical Education)

Kumiko TOYOSHIMA

(Graduate Student of Health and Physical Education)

I. 緒 言

近年, 社会の各分野において生涯学習への関心が高まり, 学校, 地域, 職場などにおいては, 個人やグループが様々な機会や手段, 方法を利用して多種多様な学習活動を行っている。

このような生涯学習が盛んに行われている社会的背景としては, 所得水準の向上, 自由時間の増大, 高齢化の進行などに伴い, 学習自体に生きがいを見いだすなどの人びとの学習意欲が高まっていることに加え, 科学技術の高度化や情報化, 国際化の進展により, 絶えず新たな知識, 技術を習得する必要が生じていることなどが挙げられる。特に今後は, 産業構造や就業構造の急激な変化, さらに, 本格的な高齢化社会の到来を背景に, 人びとの学習需要は一層高度かつ多様なものとなるであろうと思われる。¹⁾

このような中, 1996年7月にだされた第15期中央教育審議会第一次答申では, 「心身の健康増進活動や日常的なスポーツ活動の実践を促すことによって, 長寿社会の到来を展望し, 生涯にわたり健康な生活をおくるための基礎が培われるようにすることが重要である」²⁾と述べられており, 「たくましく生きるための健康や体力を育むためにも体育が重要である」³⁾ことが指摘されている。

今日の学校体育では, 生涯にわたる生活内容としての運動(生涯スポーツ)の基礎学習の保障が中心的な目標とされ, ⁴⁾生涯スポーツは男女が一緒にスポーツを楽しむことが多いという視点から, 男女共習の授業が行われるようになってきた。しかし, それぞれの運動の特性に深くふれるような授業をめざすとき, 男女差は個人差を越えたものとなり, 共習が困難となる場合も生じてくる。⁵⁾

このようなことから, 教師が学習者の学習に取り組む意欲に影響を及ぼすと考えられる要因を理解し,

男子と女子の特徴を把握したうえで, 学習者の学習環境を整えていくことは, 学習者の学習への意欲を高めるために重要なことである。

また, 学習者が生涯にわたって何か運動をつづけようと思ったとき, 学校体育での運動経験が及ぼす影響は強いと思われる。そのため, 体育学習においては, 学習者に学びつづけようとする意欲をもたせるような性格の授業を展開することが必要である。

したがって, 学習者の学習中の意欲を高め, さらに再び同じ運動の学習を行いたいという意欲や, 将来の生活の中で積極的にその運動を取り入れていきたいという意欲に影響を及ぼす要因が何であるのかを知ることが, 教師が学習環境を整えていくためにも重要なことである。

そこで本研究では, 学習者の学習に取り組む意欲を中心的な問題とし, 男子と女子のそれぞれの学習者が生涯にわたり積極的に運動に取り組むことができるような高い学習意欲を得るための要因を明らかにする。そのうえで, 生涯スポーツに結びつくような体育学習の在り方について考えていこうとするものである。

体育学習においては, 学習者が知覚した環境・組織要因が学習者の学習意欲を規定していると考えられる。そして, その学習意欲が, 再びその単元を学習したいという意欲や, 将来の生活の中で, その単元の運動を積極的に取り入れたいという意欲に影響を及ぼすものと考えられる。

以上のことから, 本研究では, 体育学習において, どのような学習環境・組織要因が学習中の意欲の変容に影響を及ぼしているのか, また, どのような学習環境・組織要因が, 次の学習への意欲の変容や, 将来の生活の中での運動への意欲の変容に影響を及ぼしているのかについて検討することを目的とするものである。そして, これらを図1に示す分析モデルにしたがい, それぞれの影響関係について分析を試みるもので

ある。

II. 方法

1. 概念の操作化

1) 学習意欲

本研究では、西田氏⁹⁾の“仕事への意欲”の定義に基づき、“学習意欲”を「学習の遂行という個人の行動を生起させ継続させるような、その人内部に生じる心理的な力」と定義する。また、西田氏の測定モデル⁹⁾に従い、表1に示す3項目の質問の5段階尺度法による得点を用い、次式のように算出した。

$$\text{学習意欲} = \text{意欲1} + \text{意欲2} + \text{意欲3}$$

表1 学習意欲の質問項目

意欲1	自分自身が、学習に対してどの程度の意欲を持っていると思うか
意欲2	学習中、時間が知らぬ間に過ぎていくという感じをもつことがどの程度あるか
意欲3	学習上で困難や問題点・障害にでくわした場合、それらを克服していこうとする忍耐力や意志の強さはどの程度だと思うか

そして、学習者の学習に取り組む意欲を時間的経過にしたがって、「学習開始時の意欲」「学習終了時の意欲」「次の学習への意欲」「生活の中での運動への意欲」の4つに焦点をあて、それぞれの意欲を上式を用い援用した。

2) 学習環境・組織要因

本研究では、西田氏がとりあげた環境・組織要因⁷⁾に基づき、教師のリーダーシップ、学習自体の性格、学習評価、学習集団、インフォーマル・グループの5つを学習意欲に影響を及ぼす環境・組織要因としてとりあげた。具体的には、表2に示す質問項目について5段階尺度法により数量化し、表3に示す測定モデルに従い得点化したものを、環境・組織要因の影響メカニ

ズムとして測定するものである。そして、単元開始から2週目までを「学習前半の環境・組織要因」、3週目から単元終了までを「学習後半の環境・組織要因」ととらえた。

(1) 教師のリーダーシップ

本研究では、教師のリーダーシップを「教師の学習者に対する行動」と定義し、教師が学習者の学習意欲に影響を及ぼすメカニズムとして、次の4つをとりあげた。

① 評価期待

学習者が学習への努力を教師に高く評価されることによる、満足期待のことである。

② 称賛期待

教師が学習者の努力や成果を称賛することにより、学習者の学習への意欲が高まるであろうとする期待である。

③ 自律性期待 I

学習者が自分の教師は、どの程度自律性を許容すると考えるかということである。

④ 自律性期待 II

学習者の能力からみて学習が困難であるとしたときには、教師に対して自律性よりもむしろ指示を求めると考えることである。

⑤ 教師との同一化期待

学習者が教師の目標達成を志向するような、同様な価値観や目標を持っているかどうかということである。

(2) 学習自体の性格

本研究では、学習者が行う学習それ自体の性格を意欲を高める重要な要因としてとらえ、次の4つを学習における重要な内的報酬であると考えた。

① 達成感への期待 I

学習成果の主観的測定の可能性という要因から学習者の達成感への期待をみようとするものである。

② 達成感への期待 II

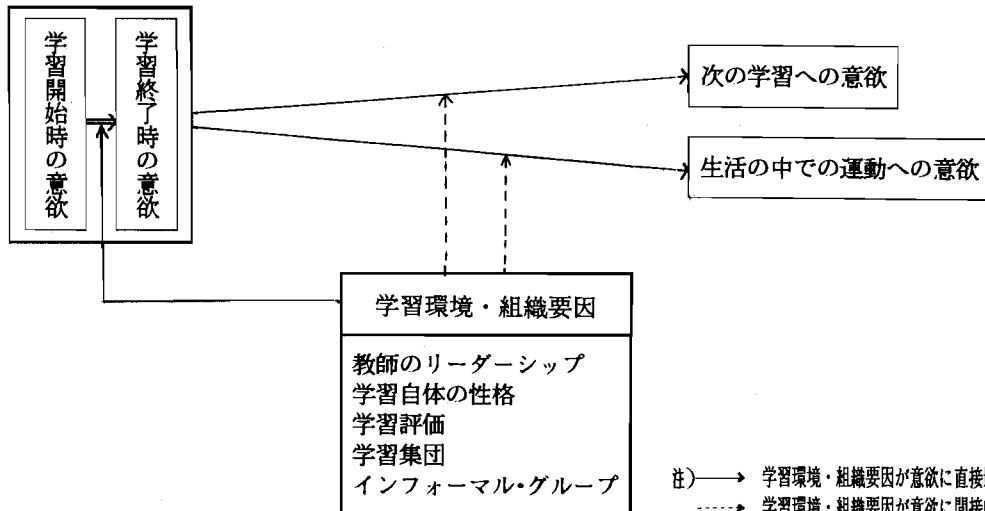


図1 分析のモデル

表2 環境・組織要因の質問項目

リーダーシップ	1 教師は学習者の学習の成果を適切に評価できるか 2 教師は学習者の成功・失敗に関心をもっているか 3 教師の評価基準は学習の成果や学習への能力中心か 4 教師からの評価はどの程度重要か 5 学習成績はどの程度重要か 6 教師は学習者の失敗より成功を重視するか 7 教師は細かい指示はしないか 8 教師に好感がもてるか
学習自体の性格	1 学習活動は学習の成果を客観的に測定できるか 2 学習活動は難しすぎないか 3 学習活動は学習の成果を主観的に測定できるか 4 学習活動は達成のよろこびなどが味わえるものか 5 達成のよろこびなどの経験があるか 6 学習活動は挑戦しがいのあるものか 7 学習活動は自己の能力を発揮できるものか 8 学習活動は自己の能力を成長させるものか 9 学習活動は自律性維持の余地はあるか
学習評価	1 努力をして学習の成果をあげることは成績に影響するか 2 努力により、立場向上の可能性がふえるか 3 学習の場での立場向上は望ましいことか 4 学習にうちこむことが成果や立場向上に影響するか
学習集団	1 グループのメンバーはグループへの誇りをもっているか 2 グループのメンバーはグループに満足しているか 3 高目標追求の雰囲気があるか 4 高い成果への関心が強い 5 規則や手順、規定された権限・責任を重視するか 6 リーダーは形式を重んじるか、形式にはとらわれないか 7 安全主義の雰囲気があるか 8 失敗してもいいから積極的に行動する雰囲気はあるか 9 対立許容の雰囲気があるか 10 互いに信頼しあい、助け合う雰囲気はあるか 11 友好的な暖かい雰囲気があるか 12 高い成果が評価される雰囲気はあるか
インフォーマル・グループ	1 学習活動が熱心だと白い目で見られないか

学習の困難性という要因から学習者の達成感への期待をみようとするものである。

③能力発揮への期待

学習者が学習に努力を傾注することによって自分の能力を十分に発揮でき、それによって満足をするのであろうという期待である。

④能力成長への期待

学習者が学習に努力を傾注することによって自分の能力が成長し、それによって満足をするのであろうという期待である。

⑤自律性発揮への期待

学習者が学習に努力を傾注することによって自分自身の判断力を行使したり決定を行ったりすることができ、それによって満足をするのであろうという期待である。

(3) 学習評価

本研究では、学習評価を「学習集団が学習者に与え

るフォーマルな(有形の)報酬」と定義し、次の3つをとりあげた。

①成績への期待

学習者が学習に対して努力を傾注するならば、成績があがり、それによって満足をするのであろうという期待である。

②立場向上への期待

学習者が学習に対して努力を傾注するならば、学習集団内での自分の立場が向上し、それによって満足をするのであろうという期待である。

③外的報酬への期待

学習者の成績への期待の程度と立場向上への期待の程度、さらに学習者にとっての立場向上に対する価値をみようとするものである。

(4) 学習集団

本研究では、学習集団を「学習をともに遂行していく集団」と定義し、次の7つを学習者の学習への意欲

表3 学習環境・組織要因の測定モデル

リーダーシップ	教師の評価への期待 = $\{R1 \times (R2 + R3) \times R1\} \times (R4 + R5)$ 教師の称賛への期待 = $R5 \times R1$ 自律性への期待 I = $R1$ 自律性への期待 II = $R1 \times R2$ 教師との同一化 = $R1 \times R2$
学習自体の性格	達成感への期待 I = $学3 \times 学4 \times 学5$ 達成感への期待 II = $学2 \times 学5 \times 学6$ 能力発揮への期待 = $学7$ 能力成長への期待 = $学8$ 自律性発揮への期待 = $学9$
学習評価	成績への期待 = $評1$ 立場向上への期待 = $評2 \times 評3$ 外的報酬への期待 = $評4 \times 評3$
学習集団	集団目標との同一化 = $(集1 + 集2) \times (集3 + 集4)$ 構造的制約の風土 = $集5 + 集6$ リスク・テークの風土 = $集7 + 集8$ 対立許容の風土 = $集9$ 相互援助の風土 = $集10 + 集11$ 高業績評価の風土 = $集12$ 高目標追求の風土 = $集3 + 集4$
インフォーマル・グループ	インフォーマル・グループへの期待 = I

注) R: リーダーシップ 学: 学習自体の性格 評: 学習評価
集: 学習集団 I: インフォーマル・グループ

に影響を及ぼす可能性があると考えた。

① 集団目標との同一化

学習者が所属する学習集団と強く同一化・一体化して、その学習集団が全体として高い成果目標を掲げているかどうかということである。

② 構造的制約の風土

学習者の所属する学習集団に規則や手続き・規程などにしたがって行動することを重視するような雰囲気・空気があるかどうかということである。

③ リスク・テークの風土

学習者の所属する学習集団に活動する上でリスク・テークを奨励あるいは認めるような雰囲気・空気があるかどうかということである。

④ 対立許容の風土

学習集団のメンバー間に学習上の意見の対立が許容されるような雰囲気があるかどうかということである。

⑤ 相互援助の風土

学習集団の中に、友好的な暖かい、そして相互に助け合うような雰囲気があるかどうかということである。

⑥ 高業績評価の風土

学習集団のメンバーの間で、すぐれた成果をあげた者を称賛し、正当に評価しようとする空気があるかどうかということである。

⑦ 高目標追求の風土

学習集団内に高い成果目標をかかげてこれを追求していこうとする空気があるかどうかということである。

(5) インフォーマル・グループ

本研究では、インフォーマル・グループを「学習者の間の人格的結びつきによって自然発生的に形成されている集団」と定義する。このインフォーマル・グループへの期待を規定するのは、ノームの性格である。

2. 調査

調査は、質問紙調査によりデータを収集した。調査対象者は、愛知教育大学附属名古屋中学校2年生、男女169名である。調査期間は、1996年5月から6月であり、回収数は143名、回収率は84.6%、有効標本数は139名、有効標本率は97.2%であった。

3. 分析

データの分析には、5段階尺度で評定された学習意欲と学習環境・組織要因に対し、ともに間隔尺度として5点から1点を与え得点化した。学習意欲と学習環境・組織要因との影響関係を明らかにするために、有意差検定や重回帰分析を行った。

III. 結果と考察

1. 全体の特徴

学習者の学習に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす学習環境組織要因について、重回帰分析で有意な値が

表4 学習者の運動に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす学習環境・組織要因 (全体)

環境・組織要因	意欲の変容		次の学習への意欲の変容		生活の中での運動への意欲の変容	
	学習中の意欲の変容	意欲の変容	学習前半	学習後半	学習前半	学習後半
(教師のリーダーシップ) 評価への期待 称賛への期待 自律性への期待 I 自律性への期待 II リーダーとの同一化	***	**	**	**	***	***
決定係数	.2529	.2931	.2084	.2225	.1701	.2067
(学習自体の性格) 達成感への期待 I 達成感への期待 II 能力発揮への期待 能力成長への期待 自律性発揮への期待	***	***	**	***	**	**
決定係数	.2597	.5574	.1773	.3313	.1743	.2543
(学習評価) 成績への期待 立場向上への期待 外的報酬への期待	*	**	*	**	**	***
決定係数	.1381	.1807	.0716	.1721	.1333	.2274
(学習集団) 集団目標との同一化 構造的制約の風土 リスク・テークの風土 対立許容の風土 相互援助の風土 高業績評価の風土 高目標追求の風土		*		*		*
決定係数	.1401	.2335	.0427	.1656	.1495	.1718
(インフォーマル・グループ) インフォーマル・グループへの期待	**	***	**	***	**	**
決定係数	.0693	.0811	.1829	.0914	.0732	.0707

(***: p < .001 **: p < .01 *: p < .05)

みられた要因をまとめ、全体の特徴を示したものが表4である。

① 学習者の学習に取り組む意欲の変容に共通の特徴は、学習前半の環境・組織要因よりも学習後半の環境・組織要因の方が学習者の学習に取り組む意欲の変容に大きな影響を及ぼしていることである。

② 学習に努力することによって教師から高く評価されるような成果をあげ、それによって成績などのフォーマルな報酬をえて満足をするという期待、学習に努力を傾注することによって達成感をえて、それによって満足をするという期待や、インフォーマル・グループへの期待は、学習前半と学習後半において学習中の意欲を高め、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲までも高めている。

③ 学習に努力を傾注することによって学習集団内での自分の立場が向上し、それによって満足をするという期待は、学習中の意欲を高め、学習後半において次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲を高めている。

④ 学習者は、学習課題が困難であると認知しており、教師に対して自律性の許容よりも教授を求めていると考えられる。

⑤ 学習前半と学習後半を通して、学習自体の性格が学習中の意欲や、生活の中での運動への意欲に最も影響を及ぼしている。また、学習前半では教師のリーダーシップが、学習後半では学習自体の性格が、次の学習への意欲に最も影響を及ぼしている。

2. 男子の特徴

学習者の学習に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす学習環境・組織要因について、重回帰分析で有意な値がみられた要因をまとめ、男子の特徴を示したものが表5である。

① 学習者の学習に取り組む意欲の変容に共通の特徴は、学習前半の環境・組織要因よりも学習後半の環境・組織要因の方が学習者の学習に取り組む意欲の変容に大きな影響を及ぼしていることである。

② 学習に努力することによって教師から高く評価されるような成果をあげ、それによって成績などのフォーマルな報酬をえて満足をするという期待や、学習に努力を傾注することによって達成感をえて、それによって満足をするという期待は、学習中の意欲を高め、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲までも高めている。

③ 学習後半に学習集団内での学習上の意見の対立が許容されるような雰囲気があると認知した学習者は、学習集団のメンバー間の意見の対立を解決していくという一種の学習への意欲を高め、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲を高めている。

表5 学習者の学習に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす学習環境・組織要因 (男子)

意欲の変容 環境・組織要因	学習中の意欲の変容		次の学習への意欲の変容		生活の中での運動への意欲の変容	
	学習前半	学習後半	学習前半	学習後半	学習前半	学習後半
(教師のリーダーシップ) 評価への期待 称賞への期待 自律性への期待 I 自律性への期待 II リーダーとの同一化		**		*	*	**
	-*		-*			
	**	*	*			
決定係数	.4045	.4388	.3767	.3142	.2631	.3256
(学習自体の性格) 達成感への期待 I 達成感への期待 II 能力発揮への期待 能力成長への期待 自律性発揮への期待	**	***		**	*	*
			*			
決定係数	.3240	.5014	.2653	.3736	.1665	.2473
(学習評価) 成績への期待 立場向上への期待 外的報酬への期待			*		*	**
決定係数	.1399	.1383	.1729	.1636	.1045	.2125
(学習集団) 集団目標との同一化 構造的制約の風上 リスクテキングの風上 対立許容の風上 相互援助の風上 高意識評価の風上 高目標追求の風上		*		*		*
		**		**		*
			*		**	
決定係数	.1576	.2633	.2242	.2659	.2715	.2097
(インフォーマル・グループ) インフォーマル・グループへの期待						
決定係数	.0016	.0067	.0000	.0193	.0097	.0228

(***: p < .001 **: p < .01 *: p < .05)

④ 学習課題が困難であると認知しており、教師に対して自律性の許容よりも教授を求めていると考えられる。

⑤ 学習前半では教師のリーダーシップが、学習後半では学習自体の性格が、学習中の意欲と次の学習への意欲に最も影響を及ぼしている。また、学習前半では学習集団が、学習後半では教師のリーダーシップが、生活の中での運動への意欲に最も影響を及ぼしている

3. 女子の特徴

学習者の学習に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす学習環境・組織要因について、重回帰分析で有意な値がみられた要因をまとめ、女子の特徴を示したものが表6である。

① 学習者の学習に取り組む意欲の変容に共通の特徴は、学習前半の環境・組織要因よりも学習後半の環境・組織要因の方が学習者の学習に取り組む意欲の変容に大きな影響を及ぼしていることである。

② 学習に努力することによって教師から高く評価されるような成果をあげ、それによって成績などのフォーマルな報酬をえて満足をするという期待や、学習に努力を傾注することによって学習集団内での自分の立場が向上し、それによって満足をするこ

表6 学習者の学習に取り組む意欲の変容に影響を及ぼす
学習環境・組織要因（女子）

意欲の変容 環境・組織要因	学習中の意欲の変容		次の学習への意欲の変容		生活の中での運動への意欲の変容	
	学習前半	学習後半	学習前半	学習後半	学習前半	学習後半
(教師のリーダーシップ) 評価への期待 称賛への期待 自律性への期待Ⅰ 自律性への期待Ⅱ リーダーとの同一化	***	* *	**	*	**	**
決定係数	.2823	.3036	.1575	.1484	.1803	.2055
(学習自体の性格) 達成感への期待Ⅰ 達成感への期待Ⅱ 能力発揮への期待 能力成長への期待 自律性発揮への期待	*** -*	*** -*	*	*	*	* *
決定係数	.2709	.6272	.1374	.2502	.2612	.2553
(学習評価) 成績への期待 立場向上への期待 外的報酬への期待	*	***		**	*	*** -*
決定係数	.1514	.2392	.0716	.1791	.1397	.2526
(学習集団) 集団目標との同一化 構造的制約の風上 リスクテキングの風上 対立許容の風上 相互援助の風上 高業績評価の風上 高目標追求の風上						*
決定係数	.1679	.2723	.0427	.1025	.1061	.1681
(インフォーマル・グループ) インフォーマル・グループへの期待	***	***	***	***	**	**
決定係数	.1367	.1690	.1829	.1636	.1237	.0983

(***: p < .001 **: p < .01 *: p < .05)

ができるという期待は、学習中の意欲を高め、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲までも高めている。

③ 熱心に学習に取り組んでも仲間から白い目で見られることはほとんどないと認知した場合、インフォーマル・グループへの期待は、学習中の意欲を高め、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲をも高めている。

④ 学習者は、学習の困難性が高く学習に努力を傾注しても高成果をあげることは難しいと考えており、教師に対して自律性の許容よりも教授を求めていると考えられる。

⑤ 学習者は、学習にうちこむかどうか成績向上や立場向上などに及ぼす影響は強いと考えており、そのような外的報酬への期待が圧力となって生活の中での運動への意欲を低下させていると考えられる。

⑥ 学習前半では教師のリーダーシップが、学習後半では学習自体の性格が、最も学習中の意欲に影響を及ぼしている。また、学習前半ではインフォーマル・グループが、学習後半では学習自体の性格が、次の学習への意欲に影響を及ぼしている。さらに、学習前半と学習後半を通して、学習自体の性格が生活の中での運動への意欲に最も影響を及ぼしている。

IV. ま と め

本研究では、学習者の生涯スポーツに結びつくような高い学習意欲を得るための要因を明らかにすることを目的としている。そのために、学習前半と学習後半の環境・組織要因が、①学習中の意欲の変容に及ぼす影響、②次の学習への意欲の変容に及ぼす影響、③生活の中での運動への意欲の変容に及ぼす影響についてを考察してきた。

その結果から、体育学習における環境・組織要因は、学習中の意欲に影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしていることが明らかになった。そして、男子と女子とでは、その影響の受け方に共通の特徴や異なった特徴がみられることも明らかになった。

男子も女子も共に、学習前半においては教師のリーダーシップが、学習後半においては学習自体の性格が学習中の意欲に大きな影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や、生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。このことから、学習前半においては教師のリーダーシップが、直接学習への意欲に影響を及ぼしていると考えられる。また、学習後半においては、教師のリーダーシップが学習自体の性格を高めるようないわば学習者に対して間接的な働きをしていると考えられる。

学習者の学習に取り組む意欲に影響を及ぼす学習環境・組織要因は、以下の通りである。

1. 教師のリーダーシップ

男子も女子も共に学習前半において、教師のリーダーシップが学習中の意欲に大きな影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。すなわち、教師が学習者の学習への努力に対して的確に評価を行うことは、学習者の学習への意欲を高めることになる。しかし、学習者とその運動の学習に対する知識や技能が未熟な状態で、教師が自律性を過度に許容してしまうと学習者は学習課題を困難であると認知し、学習への意欲を低下させてしまうことになる。特に、男子は、教師が学習目標を達成するような価値観や目標をもって指導することが学習者の学習への意欲を高めるために効果的である。

2. 学習自体の性格

男子も女子も共に学習後半において、学習自体の性格が学習中の意欲に大きな影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。すなわち、努力することにより達成感が得られるような学習を展開することが重要である。特に、女子は、能力成長への期待も意欲を高める要因に

なっているので、学習に努力することによって自分の能力の成長が実感できるような学習の性格にすることが重要である。

3. 学習評価

特に、女子において学習評価は、学習中の意欲に影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。すなわち、学習に努力することによって学習集団内での立場が向上するような環境をつくっていくことが、学習者の学習への意欲を高めるために効果的である。

4. 学習集団

特に、男子において学習集団は、学習中の意欲に影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。すなわち、学習集団が明確な目標をかかげ、その達成をめざして活動を行うことができるような学習、学習集団内に学習上の意見の対立が許容されメンバー間で解決していこうとする環境や学習に努力し高成果をあげた者に対して素直に称賛したり認め合う環境をつくっていくことは、学習者の意欲を高めるために効果的である。

5. インフォーマル・グループ

特に、女子においてインフォーマル・グループは、学習中の意欲に影響を及ぼし、さらに次の学習への意欲や生活の中での運動への意欲に影響を及ぼしている。すなわち、学習者が熱心に学習に取り組むことに対して、白い目でみるのではなく、素直に認め合える

ような雰囲気をつくっていくことは学習者の学習への意欲を高めるために効果的である。

以上のことから、教師が的確に学習環境・組織要因を整えることは、体育学習における学習者の意欲を高めるだけでなく、再び同じ運動の学習を行いたいという意欲や、生活の中に積極的にその運動を取り入れていきたいという意欲につながっていくものとなる。

今後は、この研究をもとに、学習中の意欲で望ましい変容をした者と学習中の意欲が低下した者に焦点をあて、さらに細かく分析し、それらに影響を及ぼす要因や学習成果との関係を明らかにしていくことが課題である。それらを明らかにすることにより、さらに生涯スポーツにつながる高い意欲が期待できるような望ましい体育学習の在り方を導きだすことができると考える。

引用・参考文献

- 1) 文部省 (1991) 新しい時代に対応する教育の諸制度の改革～第14期中央教育審議会答申～ P. 82
- 2) 文部省 (1996) 21世紀を展望した我が国の教育の在り方について～第15期中央教育審議会第一次答申～ P. 37
- 3) 文部省 (同上書) p.37
- 4) 小林一也他 (1994) 新学校教育全集10 保健・体育・給食、ぎょうせい、p.137
- 5) 宇土正彦他 (1993) 体育科教育法講義、大修館書店、p.47
- 6) 西田耕三 (1985) なにかが仕事意欲をきめるか、白桃書房、p. 21
- 7) 西田 (同上書) pp.7-14

(平成9年9月8日受理)